



学校だより



令和5年10月31日
11月号
調布市立第一小学校
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> Tel.042(481)7636

こんな話は“引く”でしょうか

校長 樋川 宣登志

6年生とおしゃべりをしていると、「(芸能人で)校長先生の“推し”はだれ?」と訊かれました。間の抜けた答えをすると6年生が“引く”と思い、少し“盛る”方がいいのかと迷ったのですが…。

さて、この“推し”“引く”“盛る”という言葉の遣い方を聞いて、皆さんは違和感があるでしょうか。この三つの遣い方は、比較的新しいものです。

ひと月前、国語に関する調査(*1)の結果が報告されました。その中で、上記の新しい遣い方が「気にならない」と回答した人は8割を越えます。

この他にも、慣用句の理解(*2)、情報の入手先(*3)などが調べられ、言葉遣いの変化は速く、広く浸透している様子がうかがわれます。

言葉の変化や誤用は、「日本語の乱れ」とも捉えられますが、言葉は時代につれて変化するものとも言われます。

例えば、「新しい遣い方」といいましたが、「新しい(あたらしい)」も、もとは「あらたし」で、音が入れ替わったそうです。平安時代にはすでに変化していたそうで、古(いにしえ)の人たちも日本語の乱れを憂いたでしょうか。この「新しい」などは、時間をかけて定着していて、目くじらを立てる人はもういないでしょう。しかし、一時の流行で言葉

がぞんざいに扱われるのは残念ですし、趣のある言葉も失われればまず元には戻りません。

学校で子どもたちが遣う言葉は、いまどのような状況でしょうか。

よく聞かれる「むずい」(難しい)など、正しさや丁寧さという点では十分とは言えません。誤用や流行言葉も聞かれます。また、「きもい」「うざい」などの言葉を耳にすると心が痛みます。

学校は、授業でも休み時間でも、子どもたちが言葉をやりとりし、獲得していく場です。教師が子どもと話す言葉、授業中の話し方、子どもたち同士でやりとりする言葉は大切なものです。ですから、学校は、テレビやインターネットなどのメディアと異なり、言葉については頑固で保守的であってよいと考えます。

場に応じた言葉遣いや相手を慮った言葉遣いを子どもたちが身に付けられるように、わたしたち大人が範を示し環境を整えていきたいです。

(*1)「令和4年度 国語に関する世論調査」(文化庁)

言葉遣いや意味理解、言葉への意識に関する調査。

(*2)正しい理解の割合:「涼しい顔をする」22.9%、「忸怩(じくじ)たる思い」33.5%など。ぜひ、意味を調べてみてください。

(*3)テレビ74.5%、スマートフォン・携帯電話71.6%。

本や辞典は、9.4%。

本校第十九代校長、現調布市教育委員会教育長職務代理者 奈尾力先生に、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。これは、小学校教育に長きにわたり従事し、小学校教育振興に貢献された方に贈られるものです。心よりお祝い申し上げます。